第3部実戦編

第8章

2011 年 1 月のトレード日誌 (1カ月間のトレード)

1

2011年1月7日のトレード日誌

◎ 1 回目のトレード(5 万通貨)

この日は金曜日でした。金曜日は夜に雇用統計などの大きな指標もあり、突然、相場が荒れる危険も考えられますので、普段はトレードを控え目にしています。ただ、この日は比較的午前中に相場が落ち着いていた(図1の点線枠)ので、ワントレード試してみることに……。ちょうどVの字を描くような形で勢いよく下がり、そのあと急な角度で戻しを始めていたので(図1)、戻り始めを確認し、「ここなら10pips は取れるだろう」と思い、買い(ロング)でエントリーしました。

私は、エントリー前にはできるだけ「今の相場の様子」を見るようにしています。具体的にこの例で説明すると、大きな陰線のあとに下ヒゲのある少し大きめの陽線が出ていますね(図1のA)。ここで、過去の経験から何となくではあったのですが、「もう下げていける力はなく、GMA(GinaMA)まで戻ってきそうだな」と考えました。実際、この前のチャート(図1の点線枠)を見ていただくと、ここに来るまでの間に勢いはないものの徐々に下げてきていたことがわかると思います。そして、私の思惑通り、しばらくすると、リミットに到達しました(図2)。

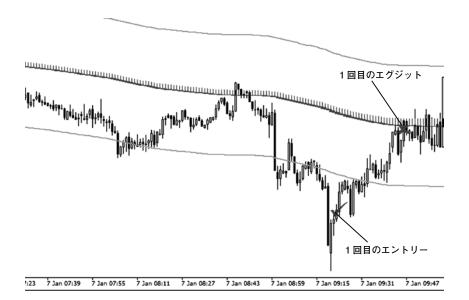
ここで、183ページの図3を見てください。中には「1回目のエントリーの前にもチャンスがあったのに、どうしてエントリーしていないのだろう」と疑問に思う方もいるかもしれません。私が"エントリーしなかった"理由をお話しします。

この例では、トレンドが一方向なのにもかかわらず、下落が緩やかすぎました。このような場合、「戻りも緩やかだ」と私は考えています。実際、図3の画像の1回目のチャンス(乖離ライナーにタッチした段階)では、まだチャートを立ち上げていませんでした。 2回目のチャンスのときに

◆図1 (1回目のエントリー)



◆図2 (1回目のエグジット)



はチャートを見ていましたが、1回目のポイントでの戻りが緩やかなまま2回目のチャンスが来てしまっているということは、戻りが弱い(=下落の力が強い)のではないかと考えてスルーしました。形としてはVの字を描くようなパターンがもっとも勝ちやすいパターンです。

そして3回目のチャンス(乖離ライナーにタッチした段階)になりました。しかし、ここに来るまでの間にGMAを超えていくことなく、少しずつ下げてきていますから、「もしかすると、このまま勢いづいてグッと下げていくのではないだろうか」と考え、様子を見ました。

私の今までの経験では(もちろん時と場合によりますが)、このような下げ方の後は勢いよく下げ、V字になって戻りはじめる場合と、下げてそのまま再びレンジになり、その後になって、また下げはじめる場合の2パターンがあります。今回の場合はどうだったかというと、一度グッと下げたところで戻りはじめました。

ここで、話が少し前後しますが、大切なことをお話ししておきます。 この手法で気をつけないといけないことは、「チャンスが来た!」と、 下げている(もしくは上げている)途中に焦ってエントリーしないことです。落ち着いて反転のサインを探してください。この例の場合は、 下ヒゲのある少し大きめの陽線が戻り始めるシグナルのように見えましたので、試しにエントリーをしてみました。

この時点での私の考えは2つ。ひとつ目は「万が一、そのまま戻さなければプラスマイナスゼロくらいのポイントで損切り」であり、2つ目は「逆行したらマーチンゲールで回避」です。マーチンゲールを使うからといって、損切りをしないわけではないのです。できるだけワントレードを早く済ませられるように、「これはマズイな!」と事前に察知できたポイントでは損切りもします。

また**今回はこのような形でエントリーしましたが、毎回同じ形がやってくるわけではありません**。もちろん、似たような場面に出くわすことはあるでしょうが、あくまでも常にケースバイケースであるこ

◆図3



7 Jan 06:00 7 Jan 06:16 7 Jan 06:32 7 Jan 06:48 7 Jan 07:04 7 Jan 07:20 7 Jan 07:36 7 Jan 07:52 7 Jan 08:06 7 Jan 08:24 7 Jan 08:40 7 Jan 08:56 7 Jan 07:12

とを肝に銘じておいてください。ちなみに、実際にトレードしている ときの心境は今ご説明したように細かく考えてはいません。

毎日繰り返しトレードをしているので、今お話ししたようなことは おそらく私の潜在意識の中で行われているのだと思います。

私にとってはトレードすることは呼吸をすることと同じなのです。皆さんは呼吸するとき呼吸の仕方を考えますか? 例えば、まずは肺のこのあたりまで息を吸って、ちょうど良いところでゆっくり吐き出してとか、今は酸素が足りないからあくびをしようとか。普通はそんなことは考えませんよね? それと同じなのです。実際は何となく相場のリズムを感じて「ここなら行けるかな!」と思ったところでササっとエントリーしています。これが"慣れ"なのだと思います。

ですが、慣れとはいえ、エントリーを決めた理由は必ずあります。 そのときは深く考えていませんが今までの経験からきちんとした理由 があります。私自身もこの本を書いていて初めて気づきました。慣れ ることは最初のうちは難しいかもしれませんが、毎日毎日繰り返すう ちにできるようになってくると思います。

今回のトレードの結果: 1.54233 - 1.54349 (約 12pips)

(※取引明細については259ページ~261ページに一括で載せています)

◎2回目のトレード(5万通貨)

さて、2回目のトレードは出かける予定があったので夜になってしまいました。金曜の夜は勢いが出やすい、つまりトレンドが発生しやすいので気をつけながらのトレードです。

最初に大きく上昇を始めたポイントから6本も陽線が続いています (図4の点線枠①)。そしてこの角度、最後の6本目で大きな陽線と上 ヒゲも出ています。チャートを見ていたら絶好の売り(ショート)の エントリーポイントだったでしょうが、残念ながらこのときはチャートを見ていなかったのでチャンスを逃してしまいました。この場合は、本来のエントリーポイント(図4の丸囲みの部分)で、かなり勢い良く上昇していますね、下ヒゲもありません。ですので、少し勢いを見ていれば初心者の方でも天井付近でエントリーできたでしょう(図4のA)。

私がパソコンを立ち上げてチャートを開いたのはちょうどこの少し後でした。上昇トレンドであるということは頭に入れつつ、図4の点線の枠(②)で囲んであるところの高値を超えられないこと、少しずつ上昇しているのに陰線が増えてきていることなどから、「現状はこのポイントを超えられる力はなく、上がるとしても、いったん少し下げてから再度上昇するような流れになるのかな」と考えました。そこで、売り(ショート)で2回目のエントリーです(図4)。エントリー後、押し目をつけてくれました(図5)。ちょうどリミットしたポイントから再度上昇を始めていますね。

今回のトレードの結果: 1.55221 - 1.55081 (約 14pips)

◎3回目のトレード(5万通貨)

3回目のエントリーは、再び上昇した後、一服して戻りそうなポイ

◆図4 (2回目のエントリー)



◆図5 (2回目のエグジット)



184

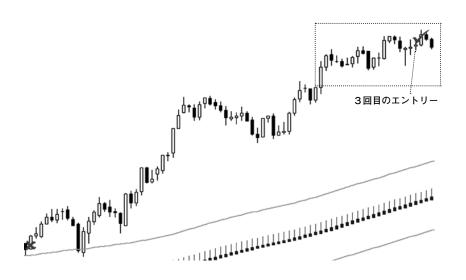
ント (図6の点線枠) です。GMAからの乖離もかなりあり、V字のような角度はないですが、高値付近にいるものの勢いがなくなってきています。ここでは「さらに上に伸びるほどのエネルギーが感じられないので、GMAまでは戻さなくとも10pips程度の戻りはつけそうだな」と考えました。そこで、売り(ショート)でエントリー(図6)です。ここも、エントリー後、うまいこと下げていってくれました(図7)。

画像を見ていただくとわかるとおり、すべてのエントリーが「本来の13pipsのエントリーポイント(=乖離ライナーにタッチしたところ)」ではありません。なぜなら、相場の勢いを見ているからです。 どういうことかというと、勢いがあるときは、できるだけ「天」や「底」をとらえてからエントリーしたほうが有利になるからです。 結果として、10pips 取れれば良いわけですから、「ここなら10pips は下げていきそうだな~」と思うポイントでエントリーしています。

もちろん、相場が落ち着いていて13pipsの乖離ライナーの間を上下しているようなときにはあまり深く考えず、乖離ライナーにタッチした後、少し勢いを見てからエントリーしています。「13pipsの乖離」というのは、「目安」ではありますが「必ず」ではないということを頭に入れておいてくださいね。

今回のトレードの結果: 1.55764 - 1.55615 (約 15pips)

◆図6 (3回目のエントリー)



◆図7 (3回目のエグジット)

